

学修支援部門ニューズレター

～医学部看護学科におけるアクティブ・ラーニングの紹介～

特集

岐阜大学のアクティブ・ラーニングを促す
各学部・学科の取組みを紹介していきます。

第二弾は、医学部看護学科での取組みを紹介します。

看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは医師だけでなくさまざまな職種の方々と協働して行われるケアの総体です。

そのため、看護学科では、多職種連携を視野に入れながら、対象者のニーズや価値観を踏まえて、その人らしい生活を営めるようにさまざまな側面から援助を行うことができる知識と技術の修得を目指しています。

看護学科では、1年次から4年次まで、学生自らが主体的で自律的な姿勢を養えるようさまざまな授業や実習でグループワーク、ディベート、スーパービジョンなどを活用しています。

1年次の頃は、自分自身の意見を持ちそれを発表することで精いっぱいであった学生も、やがて、他の学生の意見の相違があることに価値を見出し、それらの根拠となる情報や考え方に気づき、ディスカッションを深めることで、さまざまな捉え方を主体的に学べるようになっていきます。

老年看護学実習Ⅱの最終日

老年看護学実習Ⅱでは、岐阜赤十字病院あるいは羽島市民病院にて2週間の実習を行います。

実習最終日の午前中は、それぞれのグループに分かれ、午後からの意見交換会に向けて、学生間で意見を出し合いながらリフレクションを行います。



4年次の学生4名に看護学科での学びについて聞きました。

Q：グループワークで良かったところは？

看護学科では、1年次の時からグループワークがありました。

最初の頃は、自分がどのように話そうかということだけで、頭の中がいっぱいになっていたと思います。グループワークを行っていても、グループメンバーがそれぞれの意見を言うだけで終わっていたことも多かったです。学年があがることで、何度もグループワークを行う機会もあることも影響をして、だんだんと他の学生の発言内容もしっかりと聞けるようになり、その考えで、自分と違うな、どうして違う意見になるのだろう、ということを感じるようになっていけたと思います。その疑問が質問になったり、ディスカッションを深めることになったと思います。

Q：ディベートで良かったところは？

ディベートでは「賛成派」と「反対派」に分かれて、正解がないことを話し合うということで、学生の意見もさまざまであったり、その違いがある意見により、学生一人ひとりが持つ根本的な価値観に違いがあるのではないかと気づくことが出来たと思います。

患者さんに対して積極的な医療をすべきであるという方針もありますが、その患者さんや家族の考え方も大事であって、治療をしないという選択肢も存在していることが学べたと思います。また、看護師としての確固たる倫理観を持ち、いつも心にとめて、患者さんに対する最善のケアをその場その場で、患者さんや家族を中心に考えていくことが必要なのだと思います。

Q：事例展開演習で良かったことは？

事例展開演習では、グループワークを重ねながら、対象の理解を深めるために、得られた情報をさまざまな見方で捉え、その情報をアセスメントしていきました。一人では気づけなかったことがグループワークを行うことで見つかることもありました。

その反面、事例展開演習は3年次に行うことが多く、いろいろな意見が出すぎてまとまらなくなる時もありました。それぞれが正反対の意見を出し、その根拠となることを話し合ってもうまくまとまらず、学生間では解決できないこともありました。

そんな時は先生からのスーパービジョンを受けながら、方向性を見出していきました。

事例展開演習では、ケアを行う看護師側の価値観やこれまでの経験によって、ケアの方向性が変わってしまうこともあることも実感しました。学内での事例展開演習を行うことは、3年次後学期からの実習に向けての助走になると感じました。

Q: ライブ・スーパービジョンで良かったところは？

看護学科では1年次前期の初期体験実習、2年次後期の基礎看護学実習、3年次後期の領域別看護学実習、4年次前期の在宅看護学実習と統合実習があります。実習先は先端医療を提供する岐阜大学附属病院から高齢者施設である特別養護老人ホームなどさまざまです。

実習では、学内で学んだ知識や看護技術を用いて、患者さんに実際の援助をします。基礎看護学実習で、はじめて患者さんにケアを行うので、実習の前には夏休みの間も基礎看護学実習室へ通い、学生同士で洗髪や足浴などの練習を行います。

練習の時にも先生方のアドバイスを受けながら、技術の向上を目指していますが、実習本番では練習通りにうまくいかず、落ち込みと自己嫌悪に襲われることもしばしば・・・です。

実習では、ひとりの患者さんに対して看護計画を立案し実施するのですが、情報を得ること、アセスメントすること、看護計画を立案すること、実施すること、評価すること、はとても難しく、日々のカンファレンスや実習指導者様や先生方の助言をいただきながら、悶々とする日々を送ります。

画一的に考えるのではなく個別的にその人らしさを大切にしながら・・・と、言葉では分かっているても一般的な情報収集、アセスメント、看護計画から一歩踏み出すことの難しさがあります。3年次の領域別看護学実習は、9月下旬から2月中旬まで（冬休みはあります）続き、その間に、母性看護学実習、小児看護学実習、慢性期看護学実習、急性期看護学実習、老年看護学実習、精神看護学実習があり、先週は3歳の男の子を受け持っていたのに、今週は98歳の女性ということもあります。頭の切り替えがうまくいかず、日々の膨大な記録は体力の限界とも戦いながら、頑張るしかない、と自分に言い聞かせて過ごしました。辛いことはないとは言えない実習ですが、患者さんが見せてくれる笑顔や「ありがとう」の言葉は何よりも勝るものです。たまにしか言っていただけなのですが、実習指導者様や先生方の励ましの言葉にも支えられます。

「その患者に合った看護」を考え実践する、ということを目指した実習のさまざまな場面でのライブ・スーパービジョンは何よりも大きな学びだったと思います。



アカデミック・コア

学生スタッフのオリジナルイベント企画「恋愛×数学」

平成29年4月より、アカデミック・コアの学生スタッフとして活動されている工学研究科2年の尾関康弘さんが平成29年12月14日に学生イベント「恋愛×数学」というイベントを開催しました。ロミオとジュリエットの恋愛模様や人間関係を数学の理論を用いて解き明かすという内容です。学生イベントのことや学生スタッフとしての活動についてお話を聞きました。

【イベント内容】

平成29年12月14日（木）13：00～14：30開催

『どうやったらこの恋が実るのかな？』こんなことを一度は思ったことがあるのではないのでしょうか？うまくいってもいなくても恋は楽しいものですが、せっかくなら成就したいものですよね？

本イベントは恋愛を男女の感情の駆け引きと捉えて数学的に解析する方法を紹介するものです。一途な彼もツンデレな彼女も解析してみると面白い特徴があります。

実際の恋愛の駆け引きを予測して一緒に運命を変える方法を考えてみましょう。



岐阜大学アカデミック・コアオリジナル企画 H29年度第13弾

恋愛×数学

日時: 12月14日(木) 13:00~14:30 (途中参加OK!)

場所: アカデミック・コア(図書館1階)

対象: どなたでも(学生・職員・教員)

持物: 特になし

担当: アカデミック・コア学生スタッフ
尾関 康弘(工学研究科)

誰でも一度は味わったことのある甘酸っぱい記憶...
純愛に溺れたり...
後悔に苛まれたり...
上手くいくように恋愛を数学で推測できたらいいな...

～ 特別企画授業～
岐阜大学アカデミック・コア
開催場所: 1000-110 201 (土自研140A)
開催日: 12月14日



イベントで高校と大学間の数学の系譜について説明する尾関さん

学生スタッフ インタビュー

Q: どうして、このイベントを企画しましたか。

社会で数学という学問があまり活用とか認識されていないんじゃないかなって個人的に感じていて、例えば、小学校で算数、中学・高校で数学をやってきて現実とのつながりがあまりないんですよ。微分なら微分を勉強しましょうみたいな感じで、ずっと数式をいじるだけとか、計算をして答えはこうだからやってみなさいみたいな。… 現実的に数学が使われているかというところ、多分いろんなところに実際は応用されていて、例えば、日々ニュースを見ていけば必ず目にする天気予報とか。あと自動車の衝突実験の映像って見られたことあると思いますけど、実験前のシミュレーションで有限要素法という解析手法が使われているんですよ。そういうふうに数学と現実のつながりを他の学生さんにも知ってほしくて。特に、1, 2年生にもなるべく興味をもって聞いてもらうために、数学の話を実験の世界とうまいこと絡められる内容ということで、ストロガッツの「恋愛の方程式」を参考にして企画してみました。

Q: 学生スタッフの活動を通して、自分自身が学べていることはありますか。

学生スタッフの活動は、自分が学んできたものを見つめ直すきっかけになっていて、他の人に説明するとなると、やっぱり自分の中でしっかり一本筋を立てておかないといけないので。実は、このイベントでの話は、大学院の授業でストロガッツの「恋愛の方程式」の紹介があって、そのレポート問題をベースに作ったんです。授業の時は何が何だかと思いつつ普通に数式で解いていただけだったんですけど。それをジュリエットが嫌いになるからロミオがこうなってというような現実世界を数学のモデルで説明しようとする、しっかりと学び直さなければいけないので。そういう意味では、自分の目標である数式と現実とのつながりをちゃんと説明する練習になりましたね。

あと、学生スタッフになる前は、僕は、そんなにたくさん友人がいるわけでも、サークルをやっているわけでもないの、多くの人と関わってはいなかったんですけど、実際ここに来てからは、必ず人とのつながりは何らかの形では必ずあるので、学習相談もありますし、必ず人との触れ合い、つながりがあるので、僕としては人間味豊かになったかなと思うんですよ。だいぶ豊かになったかなと思うんです。昔はこんなにべらべらしゃべる人間じゃなかったです。1年ぐらい前はこんなじゃなかったんですよ。ここでの経験を通して、そういう意味では大きく成長できたと思います。

Q: 学習相談もやってるんですね。人に教えるとか、教育に関わるということにも興味をもっているんでしょうか。

どうだろうな。多分、仮に自分がわかっていることがあって、それを理解できないていない人がいるのであれば、その人に理解してもらうように説明したりとか、サポートするのが筋というか、そういう人を助けてあげたいなっていうのが根底にあるので。自分ができることで何かやれるのであればという感じです。あと、相談内容がわからないから、その人を突き返すということはないようにしています。ある程度自分の言える領域までは言って、それ以上先は難しい場合は、あとは先生に聞くとか、ほかの人に頼るとか、そういう方法をお勧めしたりしています。だから自分の言える範囲のぎりぎりのところまではがんばって、それ以上は来てくれた人や他の学生スタッフと一緒に考えるというスタンスですね。



【学習相談】

学習相談では学習に関わるいろいろな相談に応じています。学生スタッフの得意分野を生かして、「～する方法を教えてください」とか「～の解き方を教えてください」とかがあります。実際上注意していることとして方法を伝えることよりもなぜその方法なのかとか定理や法則の背景はなんであるかとかを重視して伝えることにしています。

学習相談の利用者の声

学習相談を利用している学生さんにお話を聞きました。
(工学部1年 永井綾音さん)

Q:学習相談を利用されてどうでしたか。感想を聞かせてください。

アカデミック・コアの学習相談は、相談内容について学生スタッフさんから教えてもらうというよりは一緒に考えていくというスタンスなので自分の勉強にとても役立っています。多いときは週2、3回ぐらい行くこともあって、これまで、数学とか物理系だったり、あと、中国語もすごい不安だったので相談させてもらいました。

【丁寧なアドバイス】

学生スタッフさんは時間をかけてしっかりと教えてくれて丁寧というか…例えば中国語とかですと、どういう口の形をしたらこの発音ができるかとかを実際に見せて一緒にやってくれたりとか、携帯で画像を探して、こういう感じというふうに言ってくれたりとか、授業では、一対一でこれがわからん、これがわからんとかは全然できないですから。一人一人に合わせて、いろいろやってくれるので。



【学習の理解に役立つ】

私は、答えだけ暗記するみたいな。暗記がそもそも大嫌いで理屈が通っていないじゃんって言うちゃうんですね。答えに至るまでの過程もちゃんと理解して、自分で使えるようになっていなきゃっていうのがあるので、答えだけ教えてというのはちょっと苦手ですね。そういった意味で、ここの学習相談は結構自分に合っているんですね。ちゃんと理屈を、ここは何でだろうとか聞きやすいですしね。大学の先生は忙しいかなとかいろいろ考えちゃって聞けなかったりするんですけど、学生さんだと年が近いのもありますし、いろんなことを自由に聞きやすいなというのがあります。

【楽しさ】

学習相談に行くのは楽しいですよ、楽しいです。授業ですとどうしても話を聞くことが多いので、でも、それよりかは、学生スタッフさんとこうやっておしゃべりしながらだと、自分もいろいろ考えられますし、それでいてたまにちょっと笑ったりとかもできるので、そういう自由さが楽しかったり。

私の友達でも勉強がわからないと言っている人が周りにすごいっぱいいるので。アカデミック・コアの学習相談のことをたぶん知らないと思うんですね。もっと多くの人に活用してもらいたいのになあと考えています。

学修支援部門SD・FD報告

アカデミック・コアの
イメージキャラクター
コア子です！



平成30年1月19日（金）13時30分より図書館1階アカデミック・コアにて、「協同による学習支援の課題を整理する チーム指導と能力開発」をテーマに、学修支援部門SD・FDを開催し、学内外から36名の方に参加していただきました。

同志社大学の学生支援課長 井上真琴氏を同大学の学習支援・教育開発センター准教授 濱嶋幸司氏を講師としてお迎えし、井上氏から「学習支援に関与する職員の能力開発」というテーマで、次に濱嶋氏から「ラーニング・コモンズにおける教員が果たす役割と学習支援の実践」というテーマで講演をしていただきました。教職協働のあり方や学習スペースの活用法など、学生のアクティブ・ラーニングを促す秘訣を学ぶことができました。

続いて、本学の学生スタッフ・韓 欣桐（カン キンドウ）さん（工学部）から愛知大学ラーニング・コモンズの視察について、同じく学生スタッフ・尾関康弘さんから学生スタッフの業務とこれからの課題について発表を行いました。

講演と発表の後に質疑応答の時間を設け、参加者の方からの質問に対して、講師の両氏から丁寧でわかりやすい解説をしていただきました。

今後のアカデミック・コアのあり方について、参加者の方とより理解を深めることができました。



同志社大学の濱嶋准教授による講演



本学学生スタッフによる発表

発行 2018年3月15日
作成 学修支援部門 広報チーム（今福、福岡、内海、小木曾、高橋、小澤、市川）
協力 尾関 康弘（工学研究科2年）、永井 綾音（工学部1年）
問い合わせ先 全学共通事務室学修指導係 堀（内線 2167）